

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』から見る

論文執筆時における考察方法

－シェイクスピア研究を事例に－

目次

はじめに

第1章 論文とは？

第2章 主題と対象の比較

第3章 方法論（調査設計）と方法（メソッド）

第4章 先行研究の検討

おわりに

はじめに

卒業論文を含む学術論文は「**主題**」「**対象**」「**方法論（調査設計）と方法（メソッド）**」「**先行研究の検討**」が重要である。本レポートでは、小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』を参考に論文の定義を明らかにし、上記4つの考察方法を、私が現在進めているシェイクスピア研究の見地から明らかにする。論文を書くことは「人間の不完全さに気づくこと」であると小熊が述べているように、論文を書くということは、今まで自分が知らなかったことを、先行研究をもとに調査した上で自分の意見を書くものである。私は昨年、卒業論文を書き、今年の1月に提出をした。私は卒業論文を書き始めた際、論文というものの書き方が全くわからず、構成を考えるだけで2ヶ月という膨大な時間を使ってしまった。私はこの本を読んだ際、卒業論文を書く前にこの本に出会っていただければ少なくとも章立てで苦戦することはなかったと悔しい思いをした。私を含め、皆さんの今後の論文を書く際の基

礎的な思考法を示すことが本レポートの目的である。

第 1 章 論文とは？

論文の書き方を知る前にまずは論文そのものを知ることが大切だ。論文について小熊は「読者に自分の主張を述べ、それを論証し、説得する型式である」と述べている (P.27)。他にも論文の定義について戸田山は「与えられた問い、あるいは自分で立てた問いに対して、一つの明確な答えを主張し、その主張を論理的に裏づけるための事実に・理論的な根拠を提示して主張を論証するもの」と定義づけた (戸田山, 2012, P.42)。2 人の主張を見てみると、ただ闇雲に調べたことだけをまとめるだけでは論文とはいえない。つまり調べたことを根拠に、自分の主張をして初めてそれが論文だといえるのである。

第 2 章 主題と対象の比較

論文を作成する上で、最も重要といえるものは、主題である。主題が決まらなければ、その後の論証につなげることが出来ない。主題について小熊は「個別の対象とは別の次元にある、普遍的な法則の探究」と述べている (pp.109-110)。これは具体的にどういう意味なのか。そして、対象とはどのような違いがあるのか。

仮にシェイクスピア作品を研究するという例を挙げて説明する。私はシェイクスピアの『オセロー』が好きなので、卒業論文はこの話をもとにしたいと仮定する。自分の好きな作品を一つ取り上げることはここでいう「対象」に当てはまるだろう。

次に『オセロー』という対象の中で、どのような問題があるのか。主人公のオセローは作品の中で、妻のデズデモーナに対して嫉妬に狂い、殺害してしまう。なぜオセローは嫉妬の感情に狂ってしまったのか。この疑問が「主題」である。

対象と主題がはっきりした上でテーマを決める。テーマを決める際、「シェイクスピアのオセローについて」だと何が主題で何が対象なのかがわからない。テーマを決める際に重要視されることは、具体的に主題と対象をはっきりさせることである。主題が「作中における嫉妬の感情の要因」、対象が「シェイクスピア『オセロー』の登場人物オセロー將軍」だが、そのまま反映させてしまうと、くどくなってしまう。よって少し簡略化させ、テーマは「『オセロー』から読み解く 嫉妬の感情の要因」となる。まとめると、実証的な研究

をもとにした論文の場合は、主題と対象を自覚的に設定し、主題は抽象的な問い、対象は具体的に調査できるものといった違いがあることがわかった。

第3章 方法論（調査設計）と方法（メソッド）

次に論文における方法論と方法について述べていく。方法論について小熊は「方法を組み合わせて調査全体を設計していくことを『方法論』ないし『リサーチ・デザイン』とよぶ」と述べている（P.158）。方法は「研究の道具」（P.273）と小熊が述べているように、方法論という設計図を組み立てるための道具の役割を果たしている。

これだけでは分かりづらいため、料理を作るという例を挙げて説明する。私は、テレビで特集されていて食べたくなかったのでキーマカレーを作りたいと思った。しかし、今まで作ったことはないし、レストランやレトルトのキーマカレーしか食べたことがない。このまま何も見ずに作ることはあまり推奨されないだろう。全く違うものが出来上がる可能性が高いからである。そうすると、レシピを見ることになる。レシピを確認すると、以下のよう記載されていた。

1. ご飯を炊く。
2. 玉ねぎをみじん切りにする。
3. 合い挽きに赤ワインとナツメグを入れ、混ぜ合わせる。
4. みじん切りにした玉ねぎを餡色になるまで炒め、別皿に移す。
5. 次に挽肉に焦げ目が少しくまで炒める。
6. 炒めたら、玉ねぎを入れホールトマト缶と水 100cc を入れる。
7. 中弱火で5分ほど煮立たせたら、カレールーを入れる。
8. ルーが溶けたら弱火にし、さらに5分ほどかき混ぜ、馴染ませる。
9. お皿にご飯とカレーを盛り付けて完成。

上記のレシピ通りに作ってみると、よく知っているキーマカレーを完成させることができた。つまり、1つ1つの工程を確認し、それを適宜組み合わせてみると、1つの料理が完成するということがわかる。

これを論文に当てはめてみると「材料を調達し、炒めて、煮て、盛り付ける」という全

てを組み合わせたものが方法論ないしリサーチ・デザインであり、それぞれの工程が方法（メソッド）であるということがわかった。

第 4 章 先行研究の検討

「巨人の肩の上に立つ」という言葉を知っているだろうか。この後紹介する“Google Scholar”の先頭ページにも掲載されている言葉である。これまで研究を進めてきた様々な研究者の知恵を借り、その上に自分の主張を加えるという意味が込められている。本レポートの 2 章でシェイクスピアの『オセロー』を卒業論文の題材にしたいと例を挙げた上で主題の決め方を考察した。この例を使って、先行研究の重要性について述べていく。『オセロー』について論文を書く際の問題点として欠かせないのは、人種問題である。主人公のオセロー將軍はヴェニスの中のムーア人という立ち位置である。ヴェニスには白人しかおらず、黒人はオセローだけなのである。これらを省いて論文を書こうとすることはシェイクスピア研究の作法として誤りである。例えば、オセローの描かれた 1600 年代の時代背景からムーア人について考察してみると、五十嵐はこのように述べている。

エリザベス一世は 1596 年と、そして、1601 年に、ムーア人をイングランド領内から追放する布告を出している。また、ジェームズ一世は、1585 年頃に自らが書いていた、オスマン・トルコ艦隊に対してキリスト教連合軍が歴史上唯一勝利をおさめたレパントの海戦を謳った詩 *His Majesties Lepanto, or Heroicall Song*(1603)を、即位後直ちに再出版させ、その詩の中でイスラム教徒をサタンに喩えることで、イスラムの脅威に対して警鐘を響かせた。さらに、ジェームズは、エリザベス 政権が促進したレヴァント会社を通じたイスラム世界との貿易に対しても嫌悪感を表明した。イスラム世界に関して英語で書かれた当時の多くの言説が、いつもイスラム世界を暗黒で野蛮な文化を有する他者の世界として表象しているのは当然のことであった。
(五十嵐, 2011,P.93)

ムーア人はイスラム世界の人々のことを指しており、迫害を受けていたことがわかる。これらの時代背景から人種問題を取り上げないまま『オセロー』という作品を研究することはかなり難しい。オセローだけでなく、シェイクスピア作品には、それぞれテーマがあ

る。本授業内でも取り上げた『ヴェニス商人』で、ユダヤ教徒のシャイロックがヴェニスというキリスト教徒ばかりの街で迫害を受けているという問題も同様である。こうした作品における重要な問題を触れずに研究をすることは、先行研究の検討をしていないという判断をされてしまう。よって、先行研究の検討は論文を書く上で最も重要といえるのである。

「先行研究から何かを主張をするときも、その学問体系で定評のある先行研究の方法や理論に沿ったと書いてあるほうが、認められやすい」(P.249)と小熊が述べているように、先行研究を検討することはその分野における方法論を探ることにもつながり、これまでの研究の作法を踏襲したと認定されることにもつながってくるのがわかった。

では、先行研究をどのように調査していけばよいのか。例を挙げて説明する。『オセロー』について研究をする場合、作者のシェイクスピアを検討していくところから始まるだろう。図書館へ行き、シェイクスピアの生涯に関する本を借りたとする。一般的に本の後書きの後ろや章末に参考文献一覧がある。そこからさらに深く探っていくというのが一つの方法である。他にも立正大学の学生であれば、ポータルサイトを必ず開くだろう。その中の図書館のページに「図書館データベース一覧」というリンクがある。そこを開き、図書館のページから論文を検索するのが私のおすすめである。そのサイトには、様々な文献の検索ページが記載されているので、そこから研究に関する情報を検索することができる。英語の論文を検索したい場合は、本章の最初に少し触れた“Google Scholar”がおすすめである。使用方法は、基本的に Google 検索と同じであり、数多くの英語の論文が公開されているので、非常に重宝できる。詳しくは、参考資料一覧にサイトを載せたので確認してほしい。

まとめると、先行研究は自分の研究の立ち位置を把握するために必要不可欠であり、インターネットでの検索や本の参考文献の欄など様々な検討方法があることがわかった。

おわりに

これまで論文を執筆する際の考察方法について見てきた。結論として、論文を書くという行為よりもむしろ調査をしたり、検討したりする時間のほうが圧倒的に多いということがわかった。第4章で先行研究について述べた。卒業論文を書くまで私は、論文を書く際、自分の意見だけを書くものだとずっと勘違いをしていた。しかし、大学3年生になり、ゼミでの先生の講義で「先行研究の重要性」を教授していただいた。積み上げた先行研究の上にさらに自分の手で少し上乘せするような論文を書く。この感覚こそ、論文を書く上で大事にしたい感覚である。本レポートをきっかけに研究をしてみたいと思う方が増えたら私は嬉しく思う。

参考資料一覧

・書籍

- 小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』（講談社現代新書, 2022）
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK 出版, 2012）
河合祥一郎、小林章夫編『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂, 2010）

・web サイト

- 慶應義塾大学 教養研究センター / アカデミック・スキルズ
<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/culture/academic.php> (2022,11,12 閲覧)
名古屋大学生のためのアカデミック・スキルズ・ガイド
<https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/asg/> (2022,11,12 閲覧)
立正大学図書館 - データベース一覧
<https://www.ris.ac.jp/library/search/database.html> (2022,12,3 閲覧)
Google Scholar
<https://scholar.google.co.jp> (2022,12,3 閲覧)

・論文

- 五十嵐博久「ムーア人という他者を描くシェイクスピア言説の特異性について - 『オセロ - 』を中心として - 」(東洋大学人間科学総合研究所紀要, 13, 2011, pp.93-105)